

## 新型コロナオミクロン株に対応

# 新ワクチンの接種開始

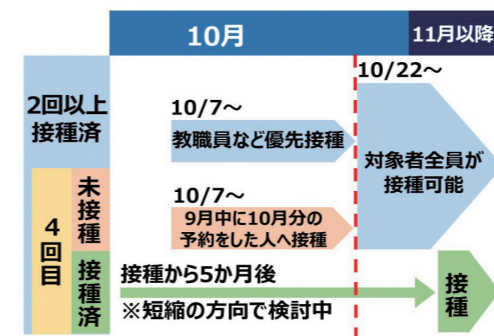
現在流行している、オミクロン株に対応するワクチン接種が始まります。対象は、2回以上接種した12歳以上の人です。  
☎新型コロナウイルスワクチンプロジェクト (☎0942・30・9724、FAX 0942・30・9833)

### ワクチンの種類が変わる

国は、新たなワクチン接種を決定しました。対象は、2回以上接種した12歳以上の人で、直前の接種から5カ月経過すると接種できます。今後、間隔は短縮する方向で検討しています。新ワクチンの接種は、現時点で一人1回で、費用は無料です。対象者が多いため、ワクチンの供給に合わせて順次対象を広げます。

市は、重症化リスクを踏まえ、4回目の接種対象者に、9月23日から新ワクチンの接種を開始して

### ■接種できる時期の目安



接種可能時期に合わせて、対象者にクーポン券を郵送します

います。10月7日(金)からは、教職員や保育園などの職員、消防団員などを対象に優先接種を行います。22日(土)からは、2回以上接種した人で、直前の接種から5カ月経過した全員が接種可能に。予約開始時期や接種会場など詳しくは、市ホームページなどで確認してください。

ワクチンの切り替えに伴い、10月22日(土)以降に接種する人のクーポン券を変更します。新しいクーポン券は桃色です。対象者には、10月中旬以降、接種可能時期に合わせて順次発送します。届き次第、予約・接種してください。

1・2回目未接種の人は、従来のワクチンを使用しますので、白色のクーポン券を持参してください。

### コールセンターの連絡先 10月から変更

■新しいコールセンター連絡先  
(8時30分から21時まで)  
☎0120・567・981  
FAX 092・712・8285

10月からコールセンターの連絡先が変わりました。従来の番号は使用できません。

### 小児ワクチン接種3回目開始

小児ワクチン3回目接種が始まっています。対象は5歳から11歳までの人で、2回目接種から5カ月以上経過した人。1・2回目接種も含め、接種会場など、詳しくは市ホームページなどで確認してください。

### ワクチン接種の予約や変更

- 【集団接種】
  - ・市ホームページからWEB予約(24時間予約可能)
  - ・コールセンター(新しい番号)(土・日・祝日を含む8:30～21:00)
  - ☎ 0120・567・981
  - FAX 092・712・8285 (耳の不自由な人専用)
- 【個別接種】
  - ・医療機関に直接予約



### 地域福祉の現場で進む重層的支援体制整備

# 官民複数で、つながりENJOY

地域には、一つの分野だけでは解決できない生きづらさを抱えた人が多くいます。久留米市は、誰も取り残さない支援体制の整備を進めています。

### 分野の垣根を越えて

市は、令和3年度から「重層的支援体制整備事業」を始めました。

この事業は、既にある仕組みを生かし、誰からのどんな相談も受け止める体制を整備。制度やサービスだけでは解決できない課題を抱える人や家族に寄り添い、一体的に支援しようという取り組みです。地域福祉課の上原敬子さんは「子どもや高齢者など福祉の窓口は、分野別に分かれています。社会が複雑化する中、課題を分けることが難しくなってきました。新事業では、行政や民間団体など関係機関が同じ目線で意見交換。少しずつ、支援者同士で支え合ったり、関係機関で課題を持ち寄ったりと垣根を越えた動きが生まれています」と話します。

### 誰かが寄り添う社会へ

介護が必要な親とひきこもりの子どもだけで孤立している世帯など、いくつも課題を抱えている人の支援は時間がかかったり、具体的な解決策がすぐに見つからなかったりします。その場合、誰かがつながり続け、支え合える関係があることが大切。「この事業を通じて、支援の専門職と市民の皆さんが重なり、暮らしの中での支え合いを増やしていきたい」と上原さん。その一歩として「身近で困っている人や気になる人がいたら、市や市社会福祉協議会に相談してほしい」とも話しました。

### 地域との関係を生かす

市社協は、支援が届いていない人たちにアプローチする役割を担っています。地域でひきこもりの人がいることを知り、支援につなぐことができたケースがあります。私たちがこれまで住民の皆さんと信頼関係を築いてきた強みを生かして、困りごとを抱えている人を支えていきたいと思えます。



久留米市社会福祉協議会 和田健さん

### 共に関わる存在が心強い

私たちは、障害のある人の相談を受けています。この事業を通して、本人と関係を築いた機関から円滑につながった事例がありました。寄り添っている人が他にいるのは心強いですね。本人が望む生活ができるように、さまざまな機関と共に支援を考え、地域の居場所や支え合いを生み出せるまちになることを期待しています。



久留米市北部障害者基幹相談支援センター長 藤井誠さん

重層的支援会議の様子。異なる分野からの意見で、視野が広がり、支援方法が変わることも



机を置かずに車座に。発言しやすくなる工夫です



地域福祉課 上原敬子さん